



宗教都市でウォーキング&温泉三昧はいかが? 「紀伊山地の霊場と参詣道」



熊野本宮大社旧社地「大斎原」

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、和歌山、奈良、三重の三県にまたがる紀伊山地の自然がなければ成立しなかった霊場と参詣道及びそれらを取り巻く山、森、川、滝、温泉、田園などの文化的景観が評価された世界遺産で、日本で唯一、世界でも類を見ない資産として価値の高いものです。

霊場「熊野」は、熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社、青岸渡寺、補陀洛山寺の三社二寺で構成されています。三社は個別の自然崇拜を起源としていますが、主祭神を相互に勧請し熊野三所権現として、また神仏習合の盛行により信仰を集めました。青岸渡寺は西国巡礼の一番札所として、補陀洛山寺は、補陀落渡海信仰で知られた寺院です。

霊場「高野」は、空海が創建した金剛峯寺、山下に建設された慈尊院、官省符庄の鎮守社である丹生官省符神社、金剛峯寺と慈尊院の中間にあり、金剛峯寺と密接な関係を保ってきた丹生都比売神社で構成されています。高野山はおよそ1200年の歴史を秘めた山上の宗教都市で、寺院と樹叢（原

の樹林）が一体となった信仰に関連する文化的景観を形成しています。

霊場「吉野・大峯」は、標高千数百メートル級の急峻な山々が続く修験道の聖地で、10世紀中頃には、日本第一の霊山として尊崇を集めていました。

熊野三山を目指す「熊野参詣道」には、熊野参詣にもっとも利用された紀伊半島西岸を進み、田辺から山中を進む中辺路、田辺から海岸沿いを進む大辺路、高野山と熊野を結ぶ小辺路、紀伊半島の東岸を進む伊勢路です。熊野三山への参詣は平安時代中頃から始まり室町時代まで盛んに行われ、近世には熊野三山への参詣を含む西国巡礼のルートとなりました。

「高野山町石道」は、金剛峯寺への参詣道で、山上の伽藍から山下の慈尊院までの間に180基、伽藍から奥院までの間に36基の卒塔婆形町石が1町ごとに、また一里ごとに里石4基立てられた参詣道です。

「大峯奥駈道」は、吉野・大峯と熊野三山を結ぶ修験者の修行の道で、標高千数百メートルの山々の主稜線を踏破するように拓かれ、道の途中には靡と呼ばれる行場が75ヵ所設けられています。

熊野参詣道（熊野古道）や高野山町石道で、語り部さんから歴史や文化をはじめ、参詣道沿いに咲く草花や山里の暮らしなどのお話をききながら歩いてみてはいかがでしょうか。また「熊野で健康ラボ」では、疲労を残さないストレッチと歩き方をレクチャーし、里中の景色や空気を感じながら楽しくウォーキングできる熊野セラピー（熊野古道健康ウォーキング）も行っています。

周辺には、世界遺産に登録されている湯峯温泉をはじめ、川湯温泉、渡瀬温泉、勝浦温泉、白浜温泉等がありますから、心身ともにリフレッシュされてはいかがでしょうか。

（協力／和歌山県世界遺産センター）

